

イネ縞葉枯病抵抗性品種の栽培によるヒメトビウンカの保毒虫率の上昇抑制

[要約]

イネ縞葉枯病抵抗性品種「あさひの夢」の栽培は、縞葉枯病の発病および媒介虫であるヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の上昇を抑制する。

農業総合センター農業研究所	平成29年度	成果区分	技術情報
---------------	--------	------	------

1. 背景・ねらい

イネ縞葉枯病（以下、縞葉枯病とする）は県西地域を中心に発生の多い状況が続いており、県南地域においても発生が増加傾向にある。本県における主食用水稲品種の作付割合は、縞葉枯病に感受性の「コシヒカリ」が約8割を占めており、抵抗性品種は数%にすぎない。抵抗性品種の利用は縞葉枯病の発病を抑制するだけでなく、媒介虫であるヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を低減する効果が期待できることから、縞葉枯病の流行を終息させるためには有効な対策である。そこで、縞葉枯病多発生地域における抵抗性品種の作付けによる有効性を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 縞葉枯病の多発生地域において、抵抗性品種である「あさひの夢」の発病抑制効果は高い（表1）。
- 2) 「あさひの夢」および感受性品種である「コシヒカリ」の栽培圃場におけるヒメトビウンカ成虫の発生最盛期は、ともに6月上中旬、7月上中旬、8月中旬であり発生消長は同様である（図1）。
- 3) 「あさひの夢」栽培圃場は、「コシヒカリ」栽培圃場と比較して、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が低く推移する。このことから、「あさひの夢」は保毒虫率の上昇を抑制する効果がある。（図2、図3）

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は、平成27～28年に筑西市の現地圃場において行った試験の結果である。なお、薬剤の育苗箱施用は行っておらず、地域慣行の航空防除を7月下旬に行った。
- 2) 抵抗性品種であってもわずかに発病することはあるが、症状は極めて軽微である。
- 3) 地域内のヒメトビウンカを増やさないため、抵抗性品種においても薬剤防除を実施する。

4. 具体的データ

表1 イネ縞葉枯病抵抗性品種および感受性品種栽培圃場におけるイネ縞葉枯病の発病状況

試験年	品種	イネ縞葉枯病 抵抗性の有無	発病株率 (%)		発病茎率 (%)
			6月下旬～7月上旬	8月上旬～中旬	8月上旬～中旬
H27	あさひの夢	有	0	0	0
	コシヒカリ	無	26.5	92.0	30.0
H28	あさひの夢	有	0	0	0
	コシヒカリ	無	6.0	86.0	16.3

注1) H27: 「コシヒカリ」栽培圃場 (筑西市二木成、26a)、移植 5月14日

「あさひの夢」栽培圃場 (筑西市西石田、49a)、移植 5月18日

注2) H28: 「コシヒカリ」栽培圃場 (筑西市二木成、74a)、移植 5月16日

「あさひの夢」栽培圃場 (筑西市嘉家佐和、39a)、移植 5月11日

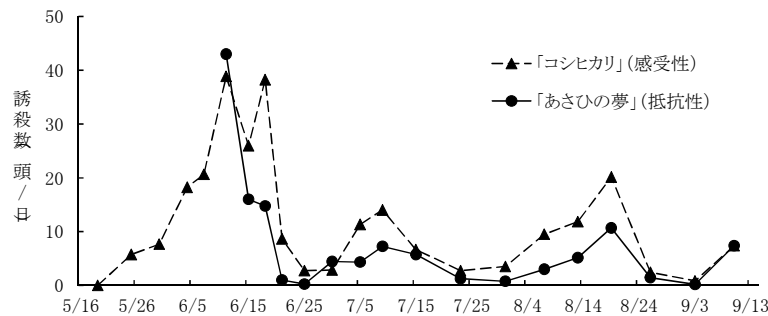


図1 イネ縞葉枯病抵抗性品種および感受性品種栽培圃場におけるヒメトビウンカ成虫誘殺数の推移 (平成28年、筑西市)

注1) 調査圃場は表1と同じである。

注2) 水田内に設置した黄色粘着トラップによる誘殺数の調査結果。調査期間の中央日を誘殺日とした。

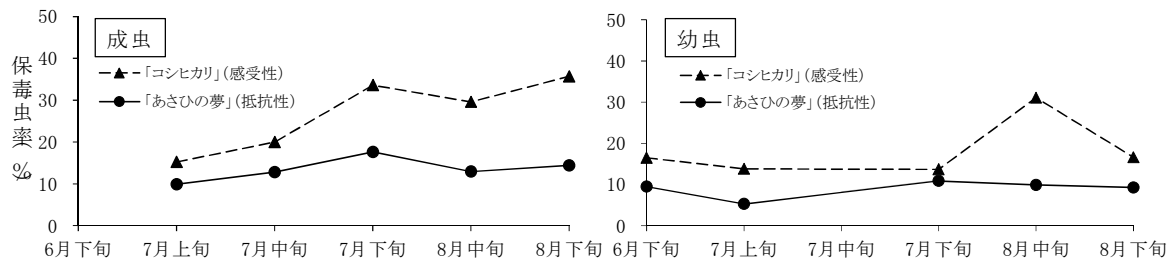


図2 イネ縞葉枯病抵抗性品種および感受性品種栽培圃場におけるヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移 (平成27年、筑西市)

注) 調査圃場は表1と同じである。

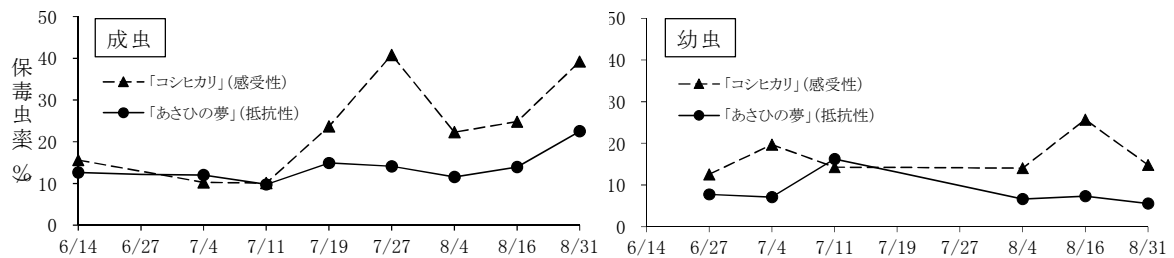


図3 イネ縞葉枯病抵抗性品種および感受性品種栽培圃場におけるヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移 (平成28年、筑西市)

注) 調査圃場は表1と同じである。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

産地に応じて抵抗性品種と薬剤防除を適宜利用するイネ縞葉枯病の総合防除技術の開発・平成27年度～平成29年度・病虫研究室